

# 県の嶺北を流れる一級河川 日野川漂着ごみ調査



一般社団法人福井県プロジェクトは、5月26日に日野川漂着ごみ調査を開催いたしました。



**目的**  
**日程**  
**実施場所**  
**参加人数**

日野川流域沿い3か所各調査場所でごみを拾い、集めたごみを分別し、個数を調べる。その結果を元にどこがごみが多いのか・どんな種類のごみが多いのかをデータ化していく

2024年5月26日(日) 7時～10時半

調査① 立待地区 糺町(石田橋～糺橋の間)  
調査② 豊地区 鳥井町(水門橋付近)  
調査③ 鯖江地区 本町2丁目(公益センター周辺)

40名



## 調査場所

### 立待地区 糺町(石田橋～糺橋)

鯖江市の南西部に位置する住宅密集地



### 豊地区 鳥井町(水門橋付近)

鯖江市の西部に位置する自然豊かな古くからの農村地帯



### 鯖江地区 本町2丁目(公益センター周辺)

鯖江市の南西部に位置する住宅密集地



主催：一般社団法人 福井県プロジェクト

共催：日本財団 海と日本プロジェクト CHANGE FOR THE BLUE

協力：鯖江市市民生活部環境政策課環境推進グループ・鯖江市市民生活部市民役推進課・

福井県エネルギー環境部循環社会推進課・福井県立大学海洋生物資源学部先端増殖科学科

福井県プロジェクト事務局 tel.0776-21-2235 [平日]9:30～17:30(福井テレビコンテンツ事業部)



※本調査は日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として実施しました。



# 県の嶺北を流れる一級河川 日野川漂着ごみ調査



## 漂着物実態調査

工程

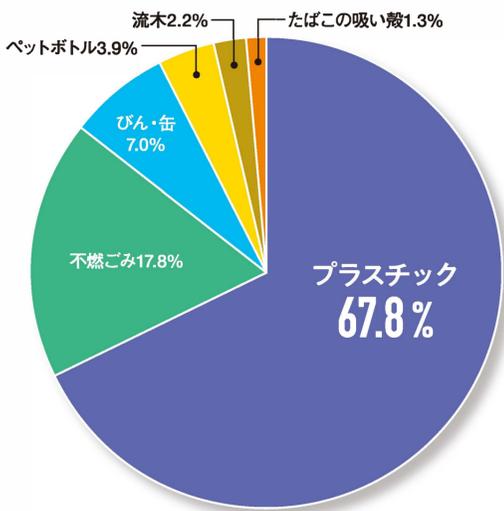
地元の町内会の方や福井県立大学先端増養殖科学科、鯖江市役所JK課の卒業生ら約40名が参加。各調査場所で約1時間かけてゴミを拾う。

ごみ拾い後はごみを8種類(プラスチック、ペットボトル、びん・缶、不燃ごみ(金属・陶器)、漁具類、たばこの吸い殻、流木、その他の可燃ごみ)に分別し、各種類毎の個数を調べました。この日集まった各調査場所のごみ総数は下記の通り。

### 立待地区 糺町(石田橋～糺橋)

近くに田畑がある影響で  
農業系のプラスチックごみが目立った

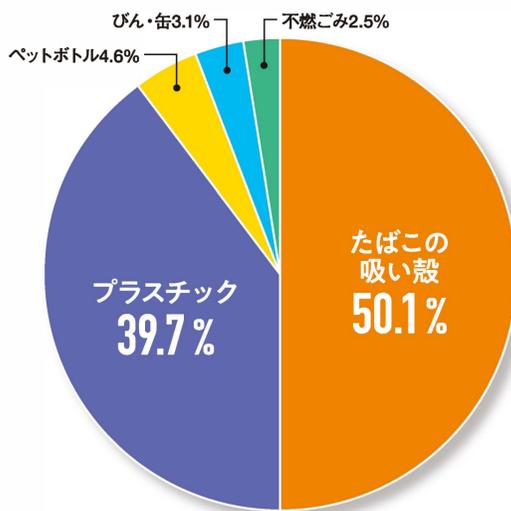
● 100mあたりのごみの分類別個数と割合 ●



### 豊地区 鳥井町(水門橋付近)

生活道路の近くのため  
タバコやレジ袋などポイ捨てごみが多い

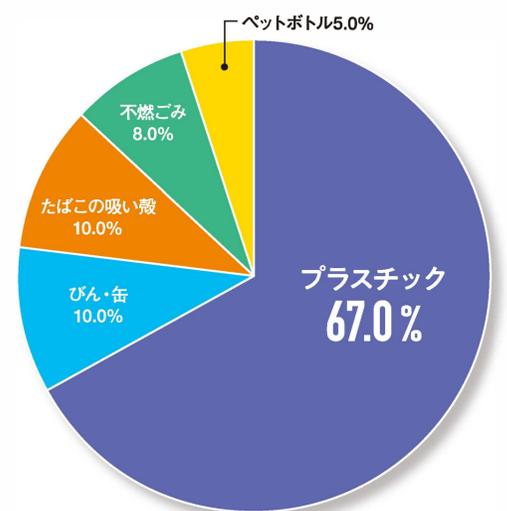
● 100mあたりのごみの分類別個数と割合 ●



### 鯖江地区 本町2丁目(公益センター周辺)

住宅密集地のため、  
ビラや紙くずなど家庭から出た可燃ごみが目立った

● 100mあたりのごみの分類別個数と割合 ●



1.9個/100m<sup>2</sup>

プラスチック	156個	漁具	0個
ペットボトル	9個	たばこの吸い殻	3個
びん・缶	16個	流木	5個
不燃ごみ	41個		



19.9個/100m<sup>2</sup>

プラスチック	190個	漁具	0個
ペットボトル	22個	たばこの吸い殻	240個
びん・缶	15個	流木	0個
不燃ごみ	12個		



4.5個/100m<sup>2</sup>

プラスチック	67個	漁具	0個
ペットボトル	5個	たばこの吸い殻	10個
びん・缶	10個	流木	0個
不燃ごみ	8個		

総数では、豊地区が3か所の中では一番ごみが多いということがわかりました。この結果は今年度の出前授業の教材内容にする等福井県プロジェクトの活動で使われます。

### 参加者インタビュー

ごみがないように見えて、草むらにたくさん隠れていた。

川から海に流れるって聞いていて、本当にそうなんだって思った。

一見きれいだったけど橋の下、特にごみが多かった。ペットボトルとか袋ごと捨ててあった。

タバコの吸い殻が一番多いと思ったが、プラごみがいっぱいあってビックリした。

川から海に流れるって聞いていて、本当にそうなんだって思った。

こんなに生活ごみが多いということに驚いた。改めてちゃんと分別して捨てようと思った。

### まとめ

#### ◎今後の対策

海洋プラスチックごみの約8割が地域からの流入となっている。ポイ捨て・投棄されたごみが河川をつたい、海へと流れ出て海の環境を汚し、海の生物にも悪影響を及ぼしている。このままだと2050年には海のプラスチックごみは魚の量を上回ると予測されている。

ポイ捨てによるごみの散乱がない街を目指すには、地域の方一人一人の環境美化意識と喫煙マナーの向上が大切だ。ポイ捨てする人に対して防止を働きかけるとともに、ポイ捨てを防ぎたいと思っている人々の協力を得られるよう、効果的な啓発活動を行う必要がある。

#### ◎主な取り組み例

- ◆ポイ捨て禁止啓発看板の見直し
- ◆市政だより又は地区だよりによる啓発
- ◆ホームページやSNSを利用した啓発
- ◆マスメディアの報道による啓発
- ◆イベント等での防止キャンペーンの実施

主催：一般社団法人 福井県プロジェクト

共催：日本財団 海と日本プロジェクト CHANGE FOR THE BLUE

協力：鯖江市市民生活部環境政策課環境推進グループ・鯖江市市民生活部市民役推進課・

福井県エネルギー環境部循環社会推進課・福井県立大学海洋生物資源学部先端増殖科学科

福井県プロジェクト事務局 tel.0776-21-2235 [平日]9:30~17:30(福井テレビコンテンツ事業部)



海・湖・山・里・川への  
やさしさを目指して。  
**福井県**  
よくどんぜん



※本調査は日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として実施しました。